

【資料2-1】

開催日：令和3年10月26日（13:30～14:55）

開催場所：のいちふれあいセンター2階研修室

第2回 幼年就学期部会報告書

（R3年度上半期（KPI進捗状況）の取り組み状況報告実績（KPI評価）と
部会テーマに対する令和3年度上半期実施状況及び4年度取り組みについて）

◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	中脇 正人	野市小放課後子ども教室 教育活動推進員	出
2	○	武田 了子	夜須保育所 所長	出
3	◇	前田 真衣	香南市社会福祉協議会 職員	欠
4	◇	竹倉 美智	香南市民生委員児童委員協議会 主任児童委員	欠
5	◇	中元 啓恵	香南市教育委員会 教育委員	欠
6	◇	別役 三省	香南市PTA連絡協議会 会長	欠
7	◇	貞弘 愛	赤岡保育所 保護者	欠
8	◇	藤田 優子	城山高校 校長	出
9	◇	山岡 大二	野市小学校 校長	欠
10	◇	尾知 智美	子育てサークル まざあぐうす 代表	出
11	◇	小松 伸子	総合子育て支援センター「にこなん」所長	出
*ファシリテーター		坂本 ひとみ	産臨介事務所 主任研究員	出

6名

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	前川 浩文	こども課	出
2	○	三木 守	学校教育課	出
3	◇	國松 士晃	こども課	出
4	◇	坂本 充子	学校教育課	出
5	◇	本田 靖彦	生涯学習課	出
6	◇	竹村 桂子	健康対策課	出
7	◇	名倉 海子	福祉事務所	出
8	◇	恒光 フミ	市民保険課	欠
9	◇	田淵 浩平	人権課	出
10	総括	岩田 由子	地域支援課	欠
11	//	黒岩 和代	//	出
12	//	西岡 亜希子	//	出

10名

☆幼年就学期部会の開催内容（主な資料は事前送付済み）

- 開会
- 自己紹介
- 内容
 1. 7.27 策定委員会で出された意見について
 2. 令和3年度上半期（KPI進捗状況）の取り組み状況報告について（資料1）
 3. 部会テーマに対する令和3年度上半期実施状況及び4年度取り組みについて（資料2-1）
- 閉会

1. 7.27 策定委員会で出された意見から深掘り

【あいさつ運動など】

- 野市小学校の校長先生からあいさつの話が出て、年1回・月1回にあいさつの日をやってみたいという意見が出た。私もあいさつ運動をやったことがあり、声をかけると返してくれるのでいいなと思ったので、それが印象に残った。
- 本来の目的に沿って、また、予算もある中で、先ほども出たあいさつやケーブルテレビの活

用、ユーチューブの利用等、あえてお金のあまりかからない方法を考えていると思って、全体の意見を聞かせてもらった。実際、お金のかかることもある。給食費のことや、いろいろな継続していく事業もあるのでそういうことを踏まえて前回出た意見と今年度取り組んでいる状況を踏まえて4年度に向けてどうして行くかを部会長に舵を取っていただきながら進められたらいいのではないかなと思う。

- 夜須中学校区は現在もあいさつ運動をしている。校区によって昔からやっていたことが息づいていたりとか、何らかの事情で出来なくなっていたりがあると思うので、香南市として全体でやっていくかどうかは別にしても何かしら取り組めたらいいかなと思う。
- あいさつ運動は、以前、野市中学校の保護者がやっていたと思う。子どもが小さかったので関わらず残念だと思っていた。荒れている学校を何とか立て直さないといけないという事でPTAの方たちがあいさつ運動を始めて、月に1回やっていたと思う。
→あいさつを兼ねた交通立哨（りっしょう）、自転車の乗り方など、今は、どちらかと言えばそちらの方に意識が強くいつている。横断歩道や危険と思われる場所での立哨を、PTAと教員で、月に1～2回のペースで定期的にやっている。あいさつの面でいうと、生徒会執行部が正門の所で生徒会活動としてのあいさつ運動をやっている。子どもたちとのコミュニケーションを保護者と一緒にあいさつ運動で、という事からは形が変わっている。
- 保幼小中で連携をしているので、月に1回とか1学期に1回、香南市全体で城山高校も含めて、保幼小中高で出来れば楽しそうだなと思う。
- ちょうど今週あいさつ週間で城山高校と赤岡中学校の生徒会で3か所を定めて、旗をもってタスキをかけてやっているところ。あいさつをすれば気持ちもいいし、地域の人も声をかけてくれるし、もっと広めていけるといいのかなと思う。
- そういった普段の活動と別に日を決めて香南市全体でやったら、より啓蒙できるのではないかなと思う。
- 春と秋の交通安全の時に保護者の皆さん立たれていると思うので、あの感じで導入したらいいかもしれない。
- 保幼小中で連携して防災訓練をするなど、防災の連携はやっていないのか。
- 夜須は年3回訓練をしているが、中学生にも手伝ってもらおうようにしている。回数を重ねると慣れてきて時短にもなるし良い機会になっている。
- 無理強いしないという事が一番の狙いだと思うので、モデル的にやりながら広げていってみたいはどうか。防災に対する連携が出来たらすごく良い。地震についての研究が京都大学に集まっていて、どんどん情報が発信されるので、関西ではすごく危機感を持っている。反面、高知に帰ってきてあれっと思うことがあって、高知の方が危険度が高いのじゃないかなと思う。あいさつ含めみんな考えていかないと、気にしなくなってしまう。
- いろんな意味で幼年期就学期部会で取り組んでいけたら良いと思う。

2. 令和3年度上半期（KPI進捗状況）の取り組み状況報告に対する意見

【指標 NO.5 育児教育相談利用者数（延）を件数表示に改めることについて】

- 今までの「人数」だとそこまで正確じゃないのかなと思っていたので、資料のとおり「件数」への変更でいいと思う。

→1年間の中でも同じ方が繰り返し相談しているケースもあり、前に相談していた方に相談したいとのことで、改めて別の方に一から相談し直しというのはなかなか難しい。

→配布資料にR3年4月付の教育委員会から発信しているチラシがある。悩んでいることを話してみませんかというところで、これがほのぼの相談にあたる内容。ただし、裏面にあるように、それぞれの悩みにも種類があって、それぞれに応じた専門機関を県の方で用意されていることもある。このチラシを配布することで市内の窓口としてつないでいき、香南市外の相談機関の周知もあわせて行っているので、市民の相談件数はこの数値より多いかもしれない。選択肢が増えることは良いことだと思うので、今後もこのような形で周知していきたい。

*KPI指標は「育児教育利用者数(延)」から「育児教育利用件数(延)」に改める。今後は、事業内容欄に対象となる相談事業ごとに件数を明記し、目標と達成評価は設定しないことにする。

【指標9 こうなんファミリーサポートセンター会員数について】

- 会員数より利用件数を指標にするのか。
→利用件数はマッチング率にもよる。
 - 目的によって出すものが違うと思うので一定評価ができるものを。目的がどんどん利用してほしいというのであれば利用件数を出した方がいいし、増やすことが目的であれば会員数を出した方がいいのでそこをどうするかということだと思う。
たくさん利用しているのでみんな安心して利用してくださいということであれば具体数を出して広げていくということもあるが、件数ばかりに比重が行くと気が付いた時に会員が確保できていなかったということになる場合も考えられるので、会員を確保しながらこういったサービスがありますよということを伝えながらやっていかないといけない。
見せる所は利用件数でいいので会員の確保も周知していけばいいと思う。
 - 件数はコロナ等で減ることがあるので評価の基準にするのは難しい。評価から外すとか、マッチング率100パーセント目指すとか、あえて評価しないとかでも良いと思う。
 - 件数は「これだけ利用している人がいたら自分も利用してみよう」という気持ちになるかなと思った。
 - 会員数を指標にして、事業内容に件数を記載するにすれば、一定評価ができる。会員数も事業内容に両方載せる方がよくわかる。利用者も100人を超えているのでA評価にできる。評価は大事。
- *KPI指標は「こうなんファミリーサポートセンター会員数」のままで、今後は、事業内容欄に利用件数を明記する。

3. 令和3年度の部会テーマに対して出された意見

【にこなん開設時間等】

- にこなんの土曜日開設、昼寝から起きて遊びに行こうと思っても時間がない。平日15時までではなく、週1回でも延長できないか。
→15時までの運営としているのは、全部屋の清掃、遊具も全て消毒する必要があるため。乳児も多く、消毒作業に時間がかかる。土曜日開設については、にこなんアンケートで土曜日を求める意見もある。交流の場、リフレッシュの場、相談の場など、多くの目的で利用されてお

り、家族で利用できるよう検討したい。今は出張広場も行っているので、環境の見直しなど調整しないといけない。

- 今後、コロナが収束しても消毒をしないわけにはいかなくなってくる。消毒ボックスの購入等時間短縮を図れる手立てはないのか。

【一人一台端末（GIGA スクール構想）】

- ICT機器活用の学習推進については、城山高校の授業でも活用している。
- ICTはいじめになるとか聞いたこともあるが…。

→香南市内の各校では生徒1人1人が使える状態にはなっている。かなりいろいろな場面で使えだしているが、子ども同士で日常生活におけるコミュニケーションツールとして使いこなせているかという点はまだそこまでいっていない。実は先程のいじめの問題やセキュリティポリシーなど、使い方についてのマニュアルがまだできあがっていないので、いじめに繋がらないなどの学習がなされてからになる。

Wi-Fi環境については、R2調査では5割の家庭でしか使えない状況だったが、今年になって改めて調べると数字が全然変わってきており、ネットにつながる環境の家庭がかなり増えている。だが、全員にタブレットを持ち帰ってやりなさいとなると、まだまだ格差があるので無理。

使い方としては学校教育の在り方として打ち出している。切羽詰まっているのはコロナ対策としてであり、濃厚接触者になって2週間登校できないとなった時、Wi-Fi環境がない家庭に貸し出しできるように40個程度ルーターを構えるようにしている。先生の顔を見ながら授業を受けられる、そういうぎりぎりのラインを保証していく。自由に使えるかとなるとまだまだ時間がかかる。生徒みんなが同じ環境で使用できる状態になっていることが最低ラインであると考えている。

- めちゃくちゃな使い方をされたら困るが、絶対に必要になってくるものなので進めていただきたい。

【坂本ファシリテーターによる総括】

- * ICTに強い先生もいればそうでない先生もいる。児童も同様で運用が大変。そんな中で、支援する人も過疎地では厳しい。青森弘前市は独自の運用で、公務員のバイトをOKにしている。勤務日が終わってから1日3時間まで、週8時間以下、月30時間以下で、貰うお金は1カ月2万5千円までと決めて運用している。どんな内容かという点、りんごの収穫時は農家の人が足りないため市役所の人やっている。他にも高校の部活の指導者などもやっている。他にも地域の祭りの活動など、実際に募集をかけると1,479人いる職員のうち170人が希望したという状況でやっている。和歌山でもみかんの収穫などをやっている。これ以上仕事したくないと思っている職員に話すことではないがいろんな方法があると思う。パソコンの指導ができる職員がいると思うので、そういう地域への支援の仕方があっていいのではないかと。保育士が足りないというのも、市職員でそういうスキルを持っている方がいれば、もっと地域に出やすくなるし交流にもつながる。そういうやり方もある。

開催日：令和3年10月28日（木）18:30~20:00
本庁6階604・605号室

第2回 成年熟年期部会報告書

（R3年度上半期KPI進捗状況とR3年度上半期実施状況の取組について）

◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	川田 勲	香南市スポーツ推進審議会	出
2	○	百田 久範	青少年育成香南市民会議	出
3		坂下 真人	高知県小中学校PTA連合会	出
4		村井 洋子	吉川町まちづくり協議会	出
5		北村 大河	高知県障害者スポーツセンター	出
6		吉岡 潤	高知県人権啓発センター	出
7		白石 令子	香南市社会福祉協議会	欠
8		大庭 静子	食生活改善推進協議会	欠
9		飯島 信也	移住者（グラフィックデザイナー）	出
10		西内 慶明	こうなんスポーツクラブ事務局	欠
ファシリテーター		池添 佳代	こうち男女共同参画センター	出

8名

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	猪原 加江	生涯学習課	出
2	○	伊藤 祐美子	健康対策課	出
3		岩佐 和子	//	欠
4		山崎 正博	生涯学習課	出
5		岡田 真樹	//	出
6		小松 寿美	//	出
7		福井 理加	福祉事務所	出
8		田中 彰裕	人権課	出
9		浜田 悦秀	商工観光課	出
10		田中 菜生	//	出
11		岩田 由子	地域支援課	出
12		黒岩 和代	//	出
13		西岡亜希子	//	出

12名

☆成年熟年期部会の開催内容

- ・開 会
- ・議 題
 - ① R3年度上半期KPI進捗状況事務局報告
 - ② R3年度上半期実施状況【成年熟年期部会】について
テーマごとに今までの取組みと下半期の取組み等について説明
 - ③ ファシリテーターまとめ
 - ④ 新規事業の説明
- ・閉 会

1.R3年度上半期KPI進捗状況事務局報告

- ・事前資料の中から、質問がないため、まとめて事務局報告
- ・あらゆる事業について、コロナ禍であり、実績数値が伸び悩んでいるが、感染予防を行いながら開催時の人数制限や事前受け等を行いながら実施していると報告。
部会長・・・KPIの評価は、ABC評価ではなく実績や内容で評価するべきではないか。

2.令和3年度の取組に対して出された意見

議題② R3年度 実施状況【成年熟年期部会】及び深掘りについて

第1のテーマ「人権啓発」について

【人権課からR3年度後期の取組み等について説明】

コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、予定していた講演会等は実施できていない。今後の取組みについて報告。(11月人権啓発フェスティバル、1月香南いきいきセミナー等)

- ・職員研修：「公務員と人権」、「外国人について」「男女共同参画について」予定。
香南市の10の人権課題について年間2課題ごと5ヶ年計画で実施と報告。

【生涯学習課からR3年度後期の取組み等について説明】

- ・「公認初級障害者スポーツ指導員育成講座」スポーツ推進委員の受講を促す。

前回の部会からの意見を踏まえて、今後、市が進むべき方向性を深掘りした。

「課題対応型」から「原理原則型」へ(人権啓発センター 吉岡委員)

(何かが起きたから行うのではなく、日常から人権に対する意識を持つことが大事)

いろんな人権課題に対して共通して、自分たちが心掛けていくべきという認識、それを啓発の中で挑戦していくためにはどうしていくべきか。その中身について考えていく必要がある。

(議論：課題解決に向けて)

人権そのものについて、市民の考え方をどういう方向にもっていくべきなのか、教育・啓発に対する中身をどのように進めていくべきか。

この課題に対する助言：吉岡委員から

- ・市が行っている市民向けや職員向けの研修もあらゆる人権について考える機会を与えるためには必要である。
- ・人権啓発センターの研修講演時の共通のテーマは、「**だれもが幸せに暮らすために**」この共通テーマに基づいて個々の人権課題に関わっての研修を行っている。
- ・その中で、一番に考えておかなければならないことが、「**知る**」ということ、すべてのことを知ることはできないが「**知る(知ろうとする姿勢)**」を常に持つことが必要である。

自分の体験談：ある子どもについて、一般的に聞けば、腹を立てるような受け答えの言葉や態度があったが、実はその子は、コミュニケーション系に課題がある子どもであった。そういったことを自分が含んでいたら、それに対して感情的なことに繋がらない形で対応できていたのではないかと感じた。

- ・障害者に対する人権のことで、制度について認識不足ではないかと感じている。

障害者差別に関わる法律についても、制度等に関する具体的な内容が分かっていない。

例えば、合理的配慮の一つをとっても、自分たちが求められて、それに応じて一人ひとりに対応していくものであるとの認識までも至っていない方もいる。

- ・「**それぞれの人権課題についてもっと深く知る必要がある。**」そのために、「**原理原則**」として、**継続して「知る(学ぶ)」**ことの大切さを伝えていく必要がある。

この課題に対する助言：北村委員から

障害者に対する意識の変容について、

- ・職業柄、関わりが多く日常的な付き合いの中でリスペクトをすることもあり自分の何かが変わってきたのかもしれないが、自分自身に個人的にそういった概念がなかったから今に至っているのかもしれない。

仕事を始めて間もなく、利用者と揉めることがあり相手に対して「人としておかしくないか」と伝えた。その時の上司から「あなたが言ったことは正しい。ただし、相手の方は、あなたの人生の先輩であるから、そのことは分かっておくこと」と言われ、その言葉が、今の自分のベースにあると感じている。入社と同時にその職場にそういったベースがあったように感じる。意見をたくさん出すことは良いが、「人を見下す（なめる）ようなことはするな」といった職場内にそういった風土があったから、今の自分があり、いろんな方と出会いがあり、その方を知ることにより、より距離感が縮まってきたのだなと感じる。日常的な付き合いの中で、垣根といったものは無くなってきたのかもしれない。

・障害者スポーツセンターの体験学習、障害のある方が各学校に出向いて学習を行っているが、その知ってもらう過程の中で、年代ごとにどういった方が行ったらよいのか、センターで決めていることがある。

- ① 見える障害については、小学生・・・身体的な障害（車イスバスケット・ラグビー）
- ② 聴覚や精神障害については、中高生・・・特に精神については、高校生に対して自分自身をさらけ出して話すともものすごく共感した感想文が返ってくる。

そういった形で、段階をおって知ってもらう。こういった取組みをしている。

・神奈川でNPO団体の職員として精神・知的の来所される方に絵を教えていたが、精神・知的障害は、外見では分からないので理解されにくい。まず、活動を知ってもらうことが大事である。絵に対して障害がある方が描いたことで認められることもあるかもしれないが、その先にあったかいねとの感想がある。

・部会長：「障害の有無に限らず、喜びを与えることは大事である」

第2のテーマ「移住促進」について

【地域支援課からR3年度の現状と後期の取組み等について説明】

「移住促進の大きな取組み」

- ① 香南市を知ってもらう情報発信の取組み
- ② 香南市に入ってきてもらうための受け入れ体制の取組み
- ③ 移住者から定住者になってもらうための移住後の支援に対する取組み

課題となっている、コワーキングスペースの現状と課題、必要性について報告。

岸本集落活動センターが空家を活用した地域の交流拠点をつくり、その一部にレンタルスペースを考えている。レンタルキッチンやコワーキングスペースなどを地域の方が創り上げていくなかへ移住者の方も一緒に入ってもらうことで、移住者同士や地域と移住者との交流を考えている。

【商工観光課からR3年度の現状と後期の取組み等について説明】

・コワーキングスペース又はサテライトオフィス、シェアオフィスなど様々な業態はあるが、市の公共施設としては、津波浸水エリアに施設が多いことから、まだ決まっていないと報告。

・移住促進の一つの目玉としている「コワーキングスペース」とは

- ①移住者にとってどういうことなのか、
- ②企業にとってどういうことなのか、
- ③地域にとってどういうことなのか、解りにくい。

コワーキングスペースの意義をどう捉えて、その結果としてどういった施設・機能を果たす必要があるのか。

・別の市の移住者から香南市は、海があって山がある、空家がないかとの相談が複数件あった。移住者の2段階移住ができないものか。そういったサポート支援があったらよい。

- ・コワーキングスペースではなく、Wi-Fi環境が整っていれば、何処でも仕事はできる。貸出しのルーターなどがあればいいのかなと感じる。
- ・香南市としての魅力は、高知の中でももっとも高いと感じている。
- ・コワーキングスペースなどの施設ではなくコワーキングフィールドで良いのではないかな。

【苦言として】

・市として最終的にどういったまちを目指すのか、そういったビジョンが見えない。そこがはっきりしていないと何処かでぼやけてしまう。

- ・香南市に仕事があり循環できるようになると一番よい。
- ・短期的、中期的ならベットタウンで良いと思う。ただし将来的には、外貨を稼ぐ、外貨を呼び込むような仕組みがないと、企業誘致しても本社が県外であれば、資本はそちらに流れていく。最終的なまちづくりの視点をそこに持つておく必要がある。例えば、防災の製品を考えたらどうか。地域の特性を生かした製品開発などそういった視点を常に見据えたうえで、問題を解決していくべきと感じる。
- ・自分としては、教育や文化に投資をするべきだと考えている。公立の教育の価値を底上げすると勝手に人が集まってくる。これは、企業にはできないので、中長期的にその部分をまちとして何処に投資をしていくべきか。まちとしてどうしたいのか。夢でも良いのでそういった着地点がないと難しいと感じている。
- ・自転車についても、自転車を使ってどういったまちにしたいのか、見えてこない、目標を持ったうえで進めていくべきだと感じる。

生涯学習課から【幸福度ランキング・何でもランキング】について事務局説明

【これからの時代、地方が取り組むべき方向は、何処に着目すればよいのか。】

視点を変えた考え方として

「キーとなる言葉」良くも悪くも「〇〇ランキング」

- ・住みやすいまちとは、第一印象、幸福度（魅力度）ランキングで決まる

【2021年世界幸福度ランキング】 日本 56位 / 149国 国連作成

【2021年都道府県「幸福度」ランキング】 高知県：最下位 東洋経済新聞社

【2021年地域版SDGs調査21】うち「あなたは幸せですか」という設問に対して5段階で回答。高知県：15位

【都道府県魅力度ランキング（地域ブランド調査2021）】高知県：29位

第3のテーマ「健康増進」について

【生涯学習課からR3年度の現状と後期の取組み等について説明】

- ・前回の部会で提案されたもの、公共施設や観光施設からの距離が見える「見える化」を、ポスターや看板として案を提示。題名「ちょこっとぶらり散歩道」

また、ウォーキングは意図的にするものではなく、無意識にしているものと意識付けするためにポスター案を提示。

【商工観光課からR3年度の現状と後期の取組み等について説明】

- ・自転車活用推進計画策定の進捗状況（健康サイクリング等の開催、健康づくりに対する効果）を説明。

（生涯学習課から報告）

- ・サイクリングは景色のいいところに出かけてすると考えられるがウォーキングは基本的に

は何処かに出かけてではなく、玄関を出たときがスタート。

市道などに公民館などの公共施設から距離（200mごと）に目印を付けることができないものか。 自分の歩いた距離が分かる「見える化」が大事である。

- ・公共施設に健康ウォーキングのポスターの掲載は良いと思う。
- ・現在ある健康ウォーキングマップも他のまちにはないようで、知り合いに頼まれて香南市のマップを送った。先進事例は取り入れられるなど感じた。
- ・このコースの吉川の海岸沿いに絵を描いているのは、まちづくり協議会等と小学生や保育園児が一緒となって2012年から行っており、距離を少しずつ伸ばしている。協議会では、全体的に絵を描いて、サイクリングコースにもして欲しいと考えている。
- ・物部川の堤防も良い眺めであり、桜の広場から上岡山まで200m刻みの距離が分かる標識がありコースとして良いと思う。
- ・60歳を過ぎると、老化がはじまり、障害者となると感じた。自分たちから、不自由さをアピールしていかないと、分からないと感じた。年を取り、身をもって障害と向き合うこととなった。
- ・最近、ウォーキングをされている方が増えてきたと感じる。需要があるので、ウォーキングをもっとアピールして欲しい。また、「ウォーキングは一人でもできる。」とポスターに追加してほしい。一緒に歩くとその人に合わせて歩くことになり、無理がいく。やっぱり一人がよいと感じる。
- ・ウォーキングは街中の人よりも田舎の人の方が歩いていないように感じる。
- ・持続的な幸福、継続的な幸福、このことを考えて行く必要がある。

【総括】池添ファシリテーター

- ・印象に残ったことは、「目指すところがどういうものかということを共有したい」、夢やビジョンとか、そこに向かって共有する感覚を持つべきだと思った。
- ・ランキングの話がでたが、具体的に移住の窓口で説明するときだと是非来てくださいという形になってしまいがちで方法に迷われることもあると思うが、少し切り口を変えて幸福度ランキング、何でもランキング、それを使ってみたら、高知は、あまりどのランキングにも高いところにはないけれど、でも最下位でも楽しく生きている人も多いと思うので、情報提供に多少の遊びと厚みを持たせることでいろんなものを使ってみることで話題にもなり、人に勧めるきっかけにもなると思った。
- ・歩道がなく歩きにくいこともあるかもしれないし、行政が進めるためにはリスク管理が必要なことも分かるが、コースの中に「塩の道」などもあり、歩くには素敵なコースもたくさんあると思うのでPRも必要であると感じた。

新規事業について、事務局から報告。

閉 会

【資料2-3】

高齢期部会 開催日：令和3年10月29日（金）

令和3年度 第2回 高齢期部会報告書

（R3年度上半期実施状況と下半期の取組み・R4年度新規・拡充事業（案）について）

＜部会委員＞ ◎部会長 ○副部会長

◎事務局長 ○副事務局長 ◇事務局員

役職	氏名	所属	出欠	役職	氏名	課名	出欠
1 ◎	小松 健一	香南市社会福祉協議会 会長	出	1 ◎	都築 敏夫	高齢者介護課	出
2 ○	福井 清仁	民生児童委員会 代表	欠	2 ○	西内 淳	福祉事務所	出
3	大谷 修二	高齢者クラブ 代表	出	3 ◇	弘田 満紀	高齢者介護課	出
4	岡本 八重子	第1号被保険者代表	出	4 ◇	松田 洋彰	福祉事務所	出
5	矢野 由美子	第2号被保険者代表	出	5 ◇	岡本 修	環境対策課	出
6	名倉 恵子	サービス支援員代表	出	6 ◇	半田 貞仁	生涯学習課	出
7	福永 康夫	夜須町民生児童委員協議会	出	7 ◇	福井 智歩	健康対策課	出
8	近森 孝章	シルバー人材センター	出	8 ◇	藤田 安子	人権課	出
9	吉田 和	香美人権擁護委員協議会	欠	9 ◇	宮崎 遼	地域支援課	欠
10	横山 郁夫	生活支援コーディネーター	出				
ファシリテーター	都築 五明	高知工科大学	出				

9名

8名

☆高齢期部会の開催内容

- ・開 会
- ・内 容
- 1) 令和3年度 KPI 評価中間報告について
- 2) 令和3年度上半期の実施状況と下半期の取組みについて
- 3) 令和4年度新規・拡充事業（案）について
- ・閉 会

1) 令和3年度 KPI 評価中間報告について【資料1：KPI 評価書】

〈事務局長〉

- ・ 高齢期（第二の人生のスタート）の基本方針、各目標（5件）に対する各施策（12件）の令和3年度上半期（4月から9月）の実績の中間評価について説明。
- ・ 「5つの項目で昨年9月と比較して大幅減。それ以外の7つの項目は昨年9月と同じか、それ以下で、昨年9月と同じ時期より増の実績値はない。新型コロナウイルスの影響による事業の中止、縮小が要因。」
- ・ 今年度新たに取り組んでいる内容の説明。
No.56、No.63について、取り組み内容を説明。

〈部会長〉

- ・「コロナの影響も1年以上たって、家にこもるのも普通の生活になってきており、今後は今まで以上にPRして参加を促さないとなかなか回復しないと思う。ケーブルテレビで体操を流してくれているが、福岡県の高賀市は健康体操を15種類くらい流している。香南市も参考にし様々な形で取り組めるようにしてもらえたら。」

〈事務局長〉

- ・「去年いきいきクラブ事業がコロナで中止となったため、体操の映像をケーブルテレビで流したり、地域の代表の方に配って活用してもらったりして、自主的に取り組んでもらうように取り組んできた。
町民運動会も2年連続開催中止となり、再開に向けて支援が必要になると実感した。」

〈委員〉

- ・「深淵地域のいきいきクラブの担当としては去年の体操のDVDが非常に役に立っている。」

2) 令和3年度上半期の実施状況と下半期の取り組みについて

〈テーマ1：移動支援〉

【参考1 『地域おこし協力隊の活動について』】

〈高齢者介護課〉

- ・「R3.9月より移動支援コーディネーターとして地域おこし協力隊が着任。今年度は社協等関係機関の事業など、移動支援の現状把握を行っている。今後の課題としてはニーズの把握。実際に介護予防事業等に参加して、活動の内容や課題を把握。R4年度は移動支援をモデル的に行えるような具体的な取り組みをしていき、将来的にはNPOを立ち上げて活動していくための準備を考えている。」

〈地域支援課〉

- ・ 地域公共交通の策定について説明。
【追加参考資料1 『「香南市地域公共交通計画」策定について』】
【追加参考資料2 『香南市地域公共交通計画について』】

〈部会長〉

- ・「何をやりたいのか、どういった方向で取り組めばいいか研究して、取り組んでいってもらえればと思う。元気な方が買い物に行くだけでなく、要介護の人が通院するとか、移動支援にも様々なニーズがある。ヘルパー事業所が送迎をするような事業もあるので、そういった事業所や交通機関にもアプローチをかけて、いろんな職種に入ってもらい広くやっていくよう研究してもらえたらと思う。」

〈委員〉

- ・「少し計画から外れるかもしれないが、高齢期になったときのスポーツへの参加等について。例えば高知県主催のスポーツフェスティバルに、高齢者の参加者の車に便乗して参加している。最近では認知症等の問題が出て運転免許についても非常に厳しくなっている。2町村がバスを出して参加している。2年前までは1人千円の補助金があって交通費として使ってきたが、去年は減額、今年はなくなった。こういった部分での配慮、移動支援も考えていただきたい。」

〈部会長〉

- 「これまでも意見が出ていることだが、どうしてもできないのかの説明や、補助がなくなった代替案を出すとかしないとずっと出ると思う。これも高齢者の移動の問題のひとつなので、関係課と協議して明確な方向性を示すようお願いしたい。」

〈事務局長〉

- 「手当やバスの件は関係部署と協議、できなくなった理由等はお示しする。」

〈委員〉

- 「高齢者としては最終的に介護タクシーに行きつくと思う。身軽で遠慮なく利用できるがお金の問題がある。これを解決するために運転ボランティア制度がもう少し充実して、誰でも気楽に利用できるようにできたらいいと思う。」

《テーマ2：担い手の育成》

【参考2『人生支援（高齢期部会）用調査シート』】

〈高齢者介護課〉

- 「生活援助サービスを提供している10事業所を調査し地域資源の洗い出しを行った。調査結果から、担い手不足は地域共通の課題であり、現状の地域資源を活用した受入体制の構築は難しいことがわかった。問題解決のために、委託しているシルバー人材センターの体制強化を目指す。新規援助員の確保と既存の援助員の技術向上を図る担い手養成研修と、援助員の報酬額の改定を検討している。」

【岸本②：香南市の社会資源を地域情報マップに取りまとめたもの】

〈社会福祉協議会〉

- 作成のきっかけを踏まえた目的や活用内容、今後の展開について説明。

〈委員〉

- 「シルバー人材センターでも育成のための呼びかけをしているが、やろうという人が出ない、思ったよりきつくて定着しないという状況。魅力的な報酬があればやってみようという会員も出てくるかと期待している。」

〈ファシリテーター〉

- 「対応できる人材の確保が難しいというのは、役務と対価が合わないから人が集まらないということなのか。」

〈高齢者介護課〉

- 「一番大きな要因はそこだと思う。行政が力を加える場所として一番効果が見えやすいところが報酬の改定ではないかと思い提案している。」

〈ファシリテーター〉

- 「短期的には手っ取り早いところから手を付けるのは当然だが、中長期的に考えたときにいつまでたってもそこが片付かないのは問題になってくると思う。」

〈高齢者介護課〉

- ・ 「今後のことを考えるとニーズが増えて受け皿は足りない状態に陥るので、まずシルバー人材センターの体制強化から始めて、ゆくゆくは新しい NPO 法人や新たな受け皿の育成に力を注いでいく中長期的な視点が必要と考えているが、具体的な話は今後になろうかと思う。」

〈委員〉

- ・ 「人間関係がうまくいかず職場が嫌になるという人もいる。相談しやすい人が間に入ってくれれば、配慮があればいいと思う。」

〈委員〉

- ・ 「シルバーの仕事をやってみて、お世話をするとかコミュニケーションをとるのが自分の生きがいになるという考え方の人でないとちょっと向いてないように思う。最初の 2、3 ヶ月は慣れている人と二人で行って、次の人に渡していくというようなやり方だと受け入れるほうも受け入れやすい。」

〈テーマ3：ごみ出し支援〉

〈高齢者介護課〉

- ・ 「利用者数は当初の想定を下回っている。要因としては制度の周知不足と、客観的に必要と思われる人と主観的に必要と思う人が違うというような乖離があったのではないかと考えている。今後はより多くの人に知ってもらうために事業のチラシの見直し、介護保険の被保険者証を送るときにチラシを同封するなど、利用促進を図る。」

〈委員〉

- ・ 「ごみを門の前から持って行ってくれる人にお礼をしている人、事業所に取りに来てもらっている人もいる。実際必要な人は広報をほとんど見てないので、ケアマネ等が言葉で聞いてあげる必要があると思う。」

〈ファシリテーター〉

- ・ 「ケアマネからヒアリングしたときに必要だと思った人がいなかったというミスマッチがあった一方で、必要な人に広報等で行き届かないというのは、必要な人にケアマネが入っていないということなのか。」

〈高齢者介護課〉

- ・ 「ケアマネ連絡会を通じてケアマネに周知しているが、香南市のケアマネ連絡会になるので市外のケアマネがついている場合は知らない可能性がある。」

〈ファシリテーター〉

- ・ 「その人たちにはヒアリングはしていないのか」

〈高齢者介護課〉

- ・ 「ヒアリングはしたが、告知はしていない」

〈部会長〉

- ・ 「少なくとも近隣の市町村には告知するようにお願いします。」

3) 令和4年度新規・拡充事業(案)について

【資料3『R4年度 新規・拡充事業(案)』】

〈高齢者介護課〉

- ・ 医療機関送迎サービス事業の拡充について説明。
「来年度をめぐり、運賃とは別に介助料等を助成の対象に加えることを検討している。」

〈部会長〉

- ・ 「介護タクシーで介護保険の指定を受けているのはどれくらいあるのか。介護の指定を受けたら、乗降とかは介護報酬が出るのでは。」

〈事務局長〉

- ・ 「介護タクシー業者で受けているところはない。訪問介護のヘルパーの報酬で出る。」

〈部会長〉

- ・ 「運転手がヘルパーの資格を持っておく必要があるけど出る。一般的な介護タクシーは指定を受けてない業者だけか。」

〈事務局長〉

- ・ 「その整理ができていないが、今利用しているタクシー会社は指定を受けていないと思う。」

〈部会長〉

- ・ 「介護保険を使えるようになれば、利用できるものが増えて行政の負担も少なくなるので、業者にも指定を受けることを広報するとか検討してもらえたら。」

〈高齢者介護課〉

- ・ 「医療機関送迎サービスを拡充し、対象者を要介護から要支援に広げた。新規利用者が38名増えている。」

〈部会長〉

- ・ 「タクシー会社の運転手にヘルパーの資格をとってもらうときに助成することで、行政や事業者にとって長期的に考えたら有利かもしれない。」

〈事務局長〉

- ・ 「事業者の経費を確認しておく。指定を受けるためには指定基準や運営基準など介護サービス事業者として最低限守ってもらうルールもある。また介護サービスを受けるにはケアマネの計画書にどういう理由でどういうタクシーの利用が必要かなどの記載があるので、登録のあるヘルパーをケアマネが紹介して使うような体制になってくるが、そこはまた整理していく必要がある。」